

2023年10月5日

調査レポート

今月のグラフ(2023年10月)

ASEAN: 食料品価格上昇によるインフレ再加速懸念

調査部 研究員 井口 るり子

ASEAN 諸国の食料品価格が上昇している。2023 年は東南アジア各地に高温や少雨をもたらすエルニーニョ現象が発生しており、今後、食料品価格がさらに上昇する懸念がある。

まず、主食のコメの価格を8月の消費者物価指数でみると、タイ(前年比+2.1%)、フィリピン(同+8.7%)、マレーシア(同+3.0%)、ベトナム(前月比+4.4%)で大きく上昇したほか、インドネシアでもコメの小売価格が前年比+13.8%上昇した。コメの価格上昇のきっかけは、世界最大のコメ輸出国であるインドが7月、エルニーニョ現象による少雨での収穫減少を見越して禁輸措置をとったことである。ASEAN のコメの収穫の最盛期は11月以降であり、現時点ではエルニーニョ現象の影響については幅をもって見る必要があるものの、すでに深刻な干ばつに見舞われているタイでは、コメの収穫量が前年から3%程度減少すると見込まれている。このため、国際指標であるタイのコメ輸出価格は8月に1トンあたり648ドルと、2008年以來15年ぶりの高値をつけた後、高止まりしている(図表1)。

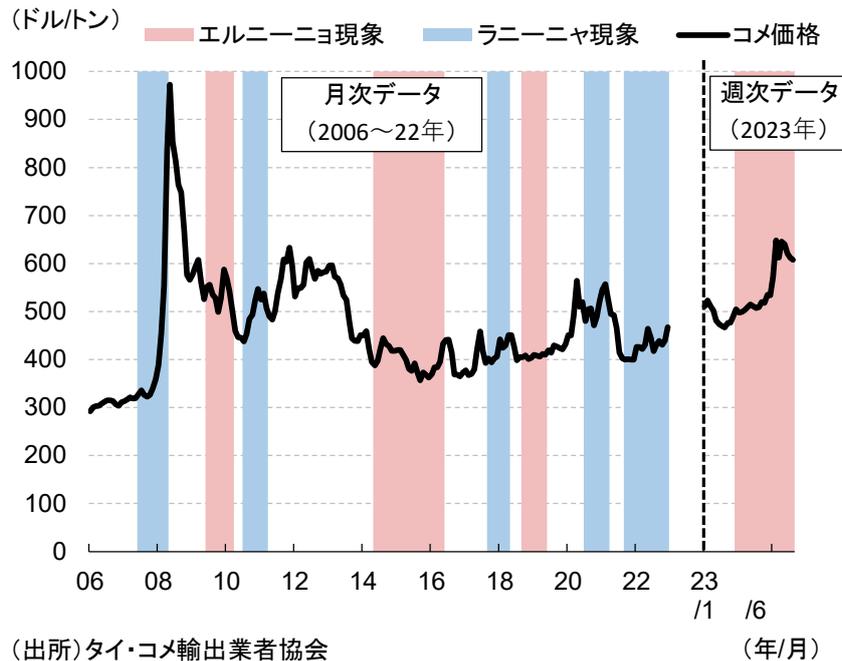
タイ中央銀行はこうした食料品価格のインフレ再燃を警戒し、他国が利下げに転じるなかでも利上げを継続している。2023年9月の金融政策委員会後の声明では、景気回復の持続によりインフレ率が今後も上昇するとの見方を示したうえで、物価の上振れリスクとしてエルニーニョ現象の影響による食料品価格の上昇を挙げた。

15年前のコメ価格高騰の際は、ラニーニャ現象やサイクロン(台風)による収穫減少に加え、人口増加による需要増加観測、コメ輸出国の輸出規制などの価格押し上げ要因が重なった。過去の動きをみるとエルニーニョ/ラニーニャ現象の発生がコメ価格の上昇に直結するわけではなく、今年についても、収穫期になり生産量が十分に確保できれば価格が反落する可能性がある。しかし、投機的な動きが強まることで価格が一段と上昇するリスクもあろう。

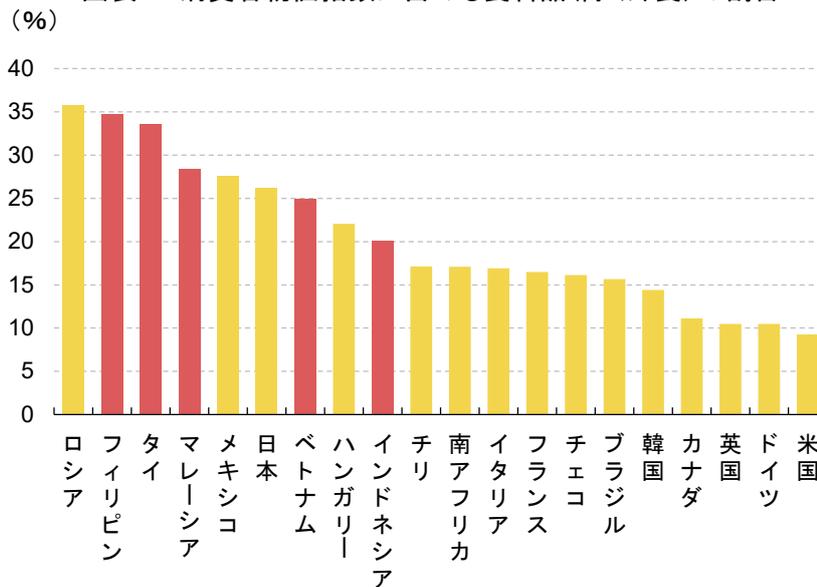
また、コメ以外の農産品についても価格上昇が懸念される。2015~16年に最強クラスのエルニーニョ現象が発生した際には東南アジア各地で干ばつが相次ぎ、パーム油生産のためのヤシや、サトウキビなどの生産が落ち込んだ。今後、2024年にかけてエルニーニョ現象の影響により砂糖、パーム油、野菜、果物といった農作物の収穫が減少すれば、原材料価格の上昇を通じて食料品全般のインフレが再燃する懸念もある。

ASEAN 各国の消費者物価指数に占める食料品のウエイトは他国に比べ高く、消費者物価上昇率が食料品価格変動の影響を受けやすい(図表2)。これらの国では2023年に入り、景気回復ペースや物価上昇ペースの鈍化などを背景に、タイを除く各国で政策金利が据え置かれ、ベトナムでは利下げが実施された。しかし、先行き、食料品価格上昇をきっかけにインフレが再加速し、物価上昇と景気鈍化が同時におきる「スタグフレーション」に直面するリスクもある。そうなれば、各国の中銀は難しい判断を迫られることになりかねない。

図表1 タイのコメ輸出価格の推移



図表2 消費者物価指数に占める食料品(除く外食)の割合



ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

ご利用に際してのご留意事項を最後に記載していますので、ご参照ください。

 (お問い合わせ)調査部 E-mail: chosa-report@murc.jp 担当(井口) TEL:03-6733-4945